



平成 28 年度講演会報告

千葉市生涯学習センターにおいて、千葉市図書館情報ネットワーク協議会講演会「『夜明けの図書館』の編集現場から-実際のレファレンス・サービス取材し、作品化のバックアップをする中で-」を開催しました。講演会には、一般公募を含め、63 人の方々にご参加いただきました。

午前中降り続いていた雨も嘘のように晴れた良き日に、大反響のコミック『夜明けの図書館』(荃納タオ作・双葉社)の編集担当である増尾徹氏(株式会社双葉社ジュール編集部)をお招きし、このコミックができた背景などについてご講演いただきました。普段知ることのできない編集現場のお話は大変貴重で、非常に有意義な講演会となりました。



千葉市生涯学習センター

日 時 平成 28 年 11 月 1 日(火) 14 時～15 時 30 分

会 場 千葉市生涯学習センター 3 階 大研修室

テーマ 「『夜明けの図書館』の編集現場から

-実際のレファレンス・サービス取材し、作品化のバックアップをする中で-

講 師 増尾 徹氏(株式会社双葉社ジュール編集部 『夜明けの図書館』の荃納タオ氏担当)



1



2

- 1/増尾氏と齊藤誠一会長。
- 2/増尾氏の講演会の様子。
- 3/増尾氏の講演会の様子。“脚本のようなものを作ってから、原稿を描くのが荃納先生の漫画作り”
- 4/質疑応答。“『夜明けの図書館』の「夜明け」は、「日が昇るように、主人公や図書館が成長していく」という意味がある”



3



4

講演会報告

「講演会『夜明けの図書館』の編集現場から

-実際のレファレンス・サービス取材し、作品化のバックアップをする中で-」を聴いて」

千葉市中央図書館

佐瀬 友里香

平成 28 年 11 月 1 日(火)、千葉市生涯学習センター大研修室において、千葉市図書館情報ネットワーク協議会の講演会が開催されました。今回は、株式会社双葉社^{ますおとあ}ジュール編集部の増尾 徹氏をお招きし、「『夜明けの図書館』の編集現場から-実際のレファレンス・サービス取材し、作品化のバックアップをする中で-」をテーマにご講演いただきました。

『夜明けの図書館』(のう 桢納タオ作・双葉社)とは、図書館を題材にした大反響のコミックです。暁月市立図書館という架空の公共図書館で、主人公である新米司書^{あおい}の葵ひなこが、利用者からのさまざまなレファレンスを通して、少しずつ成長していくという物語です。

講演では、このコミックができた背景や取材に同行してのエピソードなど、普段聞くことのできない編集現場の裏側について、とても貴重で興味深いお話をいただきました。以下、講演会の主な内容をご報告いたします。

【1】『夜明けの図書館』の立ち上げ

桢納先生が「図書館のレファレンス・サービス」を作品の題材にしようと思ったきっかけは、当時の担当編集者の方の提案でした。その方が調べものをしていた際に、図書館のレファレンス・サービスを初めて利用し、司書の方が非常に丁寧に回答してくれたことに感激したそうです。

「レファレンスを題材にするのはどうでしょう。」という提案に、桢納先生も興味を抱き、地元の小さな図書館で「レファレンス・サービスについてのレファレンス」をし、実際にどんなレファレンスがあったかなどを聞いたそうです。そのレファレンスの中で、特に先生の心に残ったダンスのステップのエピソードは、コミックにでてくる物語のヒントにもなっています。司書の方の「難しいけれど、回答にたどり着けた時、喜んでもらえることが嬉しい。」という言葉に、先生は「レファレンス・サービスは、ただの情報提供をするだけでなく、利用者の記憶や思いに触れることが

できる。小さな図書館でもこんなに面白いやりとりがあるのであれば、レファレンスにかけられた利用者の悩みや願いにスポットを当てつつ、司書がその思いを汲み取り、ともに成長していくというかたちで、十分コミックとして成立する」と思い、『夜明けの図書館』の立ち上げに至りました。

【2】単行本 1 巻の反響と売行きの高調さ

もともと『夜明けの図書館』は双葉社の月刊漫画雑誌で連載しており、単行本は 1 巻で閉じる予定でしたが、単行本が発売された後、徐々に反響が大きくなり、雑誌や新聞の書評などで取り上げられることも増えていきました。

このコミックの反響には、双葉社の営業担当の方の努力が大きく関わっているそうです。現在、出版社から書店になにも仕掛けをしないでも本が売れるという時代は終わったと言われていています。そのため、営業担当が書店に売り込みをするのが主流になっています。その際に、どこでどのくらい売れたか具体的な数字を示すなど、ちょっとした工夫をすることが本の売れ行きや反響につながるのです。そういった営業担当の地道な努力により、『夜明けの図書館』は続々と重版され、1 巻は 12 刷までされています。

このような反響から続編に取り組むことになったタイミングで、担当編集者が増尾氏に代わりました。

【3】お話の作り方・作品のバックアップ

桢納先生と増尾氏は、物語をつくるうえで「エンタメ性とリアリティ」をポイントにしています。登場人物や物語の内容にわくわくする要素を取り入れながら、リアリティを出すために複数の図書館に足を運び、多くの図書館員や関係者にかなり綿密な取材や調査を行っています。特に、作品についての取材に協力してくれる人を募集したことがきっかけで知り合った横浜市立図書館の吉田倫子さんに、作中の気になる箇所につい

てアドバイスをもらうことで、物語の中で扱うレファレンスの内容や本への導き方がより忠実なものになったそうです。

さらに、「医療系のレファレンス」など物語の大きなテーマや国立国会図書館の「レファレンス協同データベース」など図書館に関係する専門的な事例を登場させることも提案してくださり、よりいっそう物語にリアリティが生まれたそうです。

【4・5】レファレンスについて思うこと、図書館について思うこと・これからの『夜明けの図書館』が目指すもの

増尾氏は、レファレンスや図書館について、次のように語っていました。「レファレンス・サービスの魅力は“人を介して”情報を得るところにある。インターネットでたくさんの情報を引き出すことができる時代の中で、言葉にできないあいまいな記憶やニュアンスをすくい上げて、さまざまな側面から答えを引き出すというレファレンスは、これからも長く必要とされるものである。図書館には、本を見つけて借りるということだけではなく、人生を変える出来事の手伝いやちょっとした胸のつかえを取る助けなど、様々な活用法があるので、少しでも多くの人にそれを知ってもらい、活用してほしいという思いで漫画の制作にあたっている。」

また、桢納先生は「暁月市立図書館が『理想の図書館像』であることを目指している。図書館関係者が“暁月市立図書館ががんばっているなら、私たちの図書館もがんばろう”と業務の励みに思ったり、一般の読者がこのコミックを読んで“近くの図書館に行けば、主人公のような図書館員に会えるかも”と図書館に足を運びきっかけになったり、図書館に愛着を持つような漫画であれば。」と語られているそうです。

お二人の思いに、とても嬉しく感じるとともに、『夜明けの図書館』を読んでレファレンス・サービスを初めて知った方が、実際に図書館に来て、物語にでてくるような素敵な体験ができるようにしなければと、身が引き締まりました。

加盟館紹介展報告

千葉市緑図書館
小池 幸江

千葉市図書館情報ネットワーク協議会について多くの方に知っていただき、加盟館を利用していただくことを目的に、平成18年度から「加盟館紹介展」を実施しています。

今年度開催期間中は、約69,000人の方々にご来館いただきました。加盟館紹介展の各パネルは、思わず足を止めてしまうような個性のあふれる展示となっていました。

今回も昨年同様、パネルをご覧いた

だいた方のリアクションが分かるよう、「この図書館が気に入ったら、シールをはってね♪」と各館のパネルにシールとシール台紙を設置しました。どのパネルにもたくさんのシールが貼られ、多くの方に興味を持ってご覧いただけたのではないかと感じました。

開催中は、ご来館された方々が、それぞれの加盟館のパネルをじっくりとご覧になる姿が度々見受けられました。また、ご用意させていただいた各加盟館の

パンフレットやイベント紹介のチラシなども多くの方々に持ち帰りいただき、大変好評のうちに終了することができました。

[開催期間]
平成28年10月21日(金)～
11月11日(金)

[会場]
千葉市生涯学習センター
アトリウムガーデン(1階)





千葉市図書館情報ネットワーク協議会は、千葉市内の館種を越えた図書館ネットワークを通じて、情報提供能力を強固にし、図書館サービスの向上を図ると共に、学術研究及び生涯学習の発展に寄与することを目的として、平成6年1月に設立。
このNetwork通信は、加盟館の情報交流並びに協議会の活動状況を加盟館利用者等にお知らせすることを目的とし、平成10年10月から発行している。

Network通信 No.50 2016年12月27日発行
千葉市図書館情報ネットワーク協議会事務局：
〒260-0045 千葉市中央区弁天3-7-7 千葉市中央図書館内
TEL 043-287-3980 FAX 043-287-4074
千葉市図書館情報ネットワーク協議会 HP:<http://www.ccal.jp/>

